

Japan Patent Laid-Open Number: 97207/1981

Laid-Open Date: August 5/1981

Application Number: 171435/1979

Application Date: December 29/1979

Int. Class Number: A61K 7/00

Name of Patentee: Yuko Nozaki

1. Title of the Invention

Facial pack

2. Claims:

1. A facial pack in which a pack agent dissolved or mixed in a water soluble polymer is impregnated in soft paper or fabric having perforated lines at positions of eyes and mouth and having a cut line at position of nose.
2. A facial pack prepared by disposing a pack layer prepared by dissolving or mixing a pack agent in a water soluble polymer on the surface of soft paper or fabric, and then forming perforated lines at positions of eyes and a mouth and a cut line at a position of a nose.
3. A facial pack as defined in claim 1 or 2, wherein the surface of the paper or the fabric is covered with an impermeable layer.

刊行物

⑭ 日本國特許庁 (JP)

和特許出願公開

⑫ 公開特許公報 (A)

昭56-97207

⑤ Int. Cl.<sup>3</sup>  
A 61 K 7/00

識別記号

厅内整理番号  
7432-4C

③公開 昭和56年(1981)8月5日

発明の数	1
審査請求	未請求

(全 3 頁)

### ⑨美顔パック

川口市川口 4-11-2-206

②特 照 昭54-171435

出願人 野崎祐宏

出 願 昭54(1979)12月29日

川口市川口 4-11-2-206

◎ 晃 明 者 野崎祐宏

⑭代 理 人 弁 理 士 市 之 瀬 宮 夫

(B)20000470027

### し 姑明の名称

第 四 十 九 章

## 2 免許請求の趣意

1. 目と口の位置にミシン目を押し鼻の位置に切込線を設けた軟質の紙あるいは布に水溶性高分子材料中に溶解あるいは混合させたバック剤を塗布させたことを特徴とする発願バック。
2. 軟質の紙あるいは布の表面に水溶性高分子材料中にバック剤を溶解あるいは混合させたバック剤を設けた後、目と口の位置にミシン目、鼻の位置に切込線を設けたことを特徴とする発願バック。
3. 本特許請求の範囲第1項および第2項記載の発願バックにおいて紙あるいは布の表面を不透過層で被覆したことを特徴とする変形バック。

### 3. 裁判の経過な説明

本発明は炭酸パイプの改良に關するものであり、特に本発明は使用が簡単でかつ炭酸作用の緩れたシート状の炭酸パイプに關するものである。

従来一般に使用されている薬類パックは薬液調となるでエミソ剤、漂白剤等を水溶性高分子材料中に混入させ粘土状にしたパック剤をチューブ等の容器に入れて市販されている。またこの薬液パックの使用法は容器から取り出したパック剤を目および口を除いた紙全体に厚さが一層になるように圧着しながら紙面に塗り、この塗布したパック剤が乾燥するまで紙にしわが出来ないように圧着しながら持つて水またはぬるま湯でこの乾燥したパック剤を先い脱すか、あるいは乾燥して腐蝕になったパック剤を圧着しながら紙から紙がえなければならなかった。またパック剤の使用中には、ゆえ実いたくてもじつと乾燥して紙面を硬直させていなければならず、また使用中に失敗者などがあつた場合頻りにパック剤を取り除くことが出来ない等の不都合方面を有していた。

本邦明は上記の点を改善するために力されたもので、その目的とするところは、ベツタ劇を真面目に上演する手簡がなく、かつベツタ徒のベツタ劇の便い便しあるいは利益等の手簡もなく、更に便

用中に来訪者等があつた場合簡単に取り除くことができるシート状の美観パックを提供することにある。

以下図面を用いて本発明の美観パックの実施例を詳細に説明する。第1図は本発明の美観パックの一実施例で(α)は平面図、(β)は(α)のA-A'方向断面図である。同図において上は美観パックシート、11は目口の位置に設けたミシン目、12は口の位置に設けたミシン目、13は鼻の位置に設けた逆Z字形の切込線である。美観パックシート上は保護性を有しかつ美観面に透過したパック剤を保持し付けられる紙あるいは布にパック剤を含有させたものである。またこの美観パックシート上に用いられる布あるいは紙としてはパック剤を充分含浸保持できるように弾性を有すると同時に繊維が並んでかつ美観パックシート上が皺面とびつたり密着するように軟質で、かつパック剤を含有させた後も不変に伸びてしまうことのないような材質のものを使用することが望ましい。

一方この美観パックシート上に含浸させるパッ

3

ック剤を被覆するための三角形のパックシートを別に設けておいても良い。更にこの鼻の位置に設ける逆Z字形の切込線13の代りに鼻が突出するように三角形の穴あるいは口ミシン目を設け、突出した鼻を被覆するための三角形のパックシートを別に設けておいても良い。

以上本発明の美観パックの一実施例の構成を詳細に説明したが既に使用法を簡単に説明する。まずパックシート上の目と口の部分のミシン目に沿つて穴を開けパックシート上を紙に密着させる。この時目、鼻、口のそれぞれの位置にパックシート上の各位置がきちんと合うように注意しなければならぬ。

次に鼻の切込線13から突出した鼻の被覆部を目または口の部分から取り出したパックシート、あるいは別に設けた三角形のパックシートで被覆する。この状態でパックシート上に含浸されているパック剤が乾燥するまで待つて充分乾燥した後パックシート上を紙から剥がす。なお、本発明の美観パックは使用中にパック剤のバインダーとなる水溶性高分子の用液が乾燥するのを

5

1389856-97207(2)

ク剤はパックの目的に応じて消毒剤、ビタミン剤、美白剤等を水溶性高分子材料中に溶解あるいは混入させたものである。またこのパック剤は紙あるいは布に含浸されやすく、かつ紙あるいは布中に浸透し付けられるように適度な粘度を有していることが望ましい。次に目および口の位置に設けたミシン目11および12は本発明の美観パックを使用する前に使用者が容易に取り除けるようにしたものでこのミシン目の形状は円形、方形、円形等全く限定するものでないことは言うまでもない。またこのミシン目11および12に使用者の目および口の大きさに応じて穴の大きさが調整できるようにミシン目を2重以上設けておいてもよい。次に鼻の位置に設けた逆Z字形の切込線13はパックシートが鼻の形状に応じて変形するように設けたものである。なおパックシート上を紙に密着させた時この切込線13から鼻の被覆部が露出してしまふので目あるいは口のミシン目11あるいは12に沿つて取り外した部分をこの鼻の被覆部に密着使用する。またパックシート上に鼻の

切込のためにプラスチックの袋あるいはアルミニウムコートの袋等に保存しておかなければならぬ。

第2図は本発明の美観パックの他の実施例で断面図を示したものである。同図において2に紙あるいは布からなる基層でこの基層となる紙あるいは布の特性としては硬質で不変に伸びることのないようなものを用いる。また前述のパック剤と密着しやすいうものを用いる。3は基層2の上に設けたパック剤で通常の目的に応じてこのパック剤を水溶性高分子材料中に溶解あるいは混合させたものである。なお本発明の美観パックの形状は第1図の実施例と同様に目と口の位置にミシン目を設け鼻の位置に切込線を設けてある。また本発明の美観パックは使用中にパック剤の水溶性高分子材料中に含まれる成分が乾燥するのを防ぐためにパック剤3をプラスチックシート等で被覆しておく必要がある。

第3図は本発明の他の実施例でパック剤が有効に皮膚に透過するように第1図および第2図の美

6

膜パックの背面を不透膜4で被覆したものである。

以上を丁るに本発明は水溶性高分子材料中に溶解あるいは投入されたパック剤を収容の紙あるいは布に含浸あるいは塗布した浸漬パックを提供することによって本発明の浸漬パックを用いることによって簡単にパックを効果良く行うことができる。

4. 図面の簡単な説明

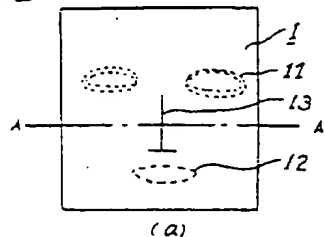
第1図、第2図、第3図は本発明の浸漬パックの実施例を示したものである。

1…浸漬パックシート、11、12…ミシン目、13…切込部、2…被覆、3…パック剤、4…不透膜。

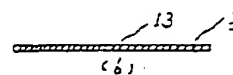
代理人 弁護士 西 之 洋 吉

特開2000-56-97207(5)

第1図



(a)



(b)

第2図



第3図

